



松戸市制施行 75周年記念 「松戸ゆかりの美術展—その潜在力—」について

■会 期 平成 30 年 8 月 4 日(土)～9 月 2 日(日) ※毎週月曜休館

■会 場

松戸市立博物館 (企画展示室)

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀 6 7 1 番地 ☎047(384)8181

※開館時間 午前 9 時 30 分～午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

■開催主旨

松戸市教育委員会はこれまでに、松戸ゆかりの美術の調査を行い、その結果として様々な芸術資源を掘り起こし、優れた作品を収集して展覧会でご紹介してきました。

今回、松戸ゆかりの美術展では、構成をⅠ「相模台の記憶 松戸にあった千葉大学工学部のデザインと美術—前身の東京高等工芸学校時代から—」、Ⅱ「利根川に魅せられて—松戸の写真家、及川修次の仕事—」の二つに分け、松戸市が刻んできた芸術の歴史を展覧します。二つの展示を通し、松戸が秘めている美術の潜在力をお伝えします。

■出品予定点数

Ⅰ 相模台の記憶 87点(家具、絵画、写真、彫刻など)

Ⅱ 利根川に魅せられて 写真(及川修次作品)78点、スライドショー5本  
参考作品(及川清太郎作品)15点

■観 覧 料 一般 300 円、高大生 150 円。小中学生無料。

■主 催 松戸市教育委員会

■後 援 JOBAN アートライン協議会

■助 成 自治総合センター、芸術文化振興基金、公益財団法人朝日新聞文化財団

■協 力 新京成電鉄株式会社、北総鉄道株式会社、流鉄株式会社

【問い合わせ先】松戸市教育委員会 社会教育課 美術館準備室

☎047-366-7463 FAX 047-366-7055

E-mail: mcshakaikyoku@city.matsudo.chiba.jp

■■会期中のイベント案内■■

ワークショップ

① 「私にも撮れるんだ」写真講座

講師：稲積修氏(写団富士愛好会副会長)

日時：8月5日(日)午前10時～午後3時

会場：松戸市立博物館実習室及び21世紀の森と広場

対象：松戸市在住在勤者

定員：20名 ※7月27日時点で定員に達しました。

参加費：無料

② 「新鮮で美しいポスターをつくろう！」親子講座

講師：泉晴行氏(学習支援専門員)

日時：8月11日(土)午前10時～午後3時

会場：松戸市立博物館実習室

対象：松戸市在住の小学4～6年生と保護者

定員：10組

参加費：無料

フロアレクチャー

① 「相模台の記憶」

講師：敷田弘子氏(武蔵野美術大学 美術館・図書館)

日程：8月12日(日) 14時から約40分間。

② 「及川修次の写真」

講師：金子隆一氏(写真史家)

日程：8月18日(土) 14時から約40分間。

① ②ともに会場は松戸市立博物館企画展示室。事前申込不要。参加には観覧券が必要です。

# I 相模台の記憶

松戸にあった千葉大学工学部のデザインと美術

—前身の東京高等工芸学校時代から—

## ■展示の見どころ

- ☞1. I部では戦後相模台に入っていた千葉大学工学部の前身である東京高等工芸学校の卒業生や教授陣の作品をご紹介します。
- ☞2. 東京高等工芸学校とは、戦前に設置されたデザイナーの養成機関で、1945(昭和 20)年10月から松戸に移りました。千葉大学工学部はその東京高等工芸学校から引き続き、デザインも学べるユニークな学部として、約20年間、相模台の地で先進的なデザイン教育を続けていました。
- ☞3. 本展では家具や絵画、彫刻など、松戸市教育委員会の東京高等工芸学校に関連するコレクションをご紹介します、東京高等工芸学校から千葉大学工学部へと繋がるデザイン教育の歩みをたどります。

## ■出品予定作品 (全87点)

### ○ジャンル

家具：18点、絵画10点、彫刻2点、工芸7点、図案10点、写真：17点、ポスター・グラフィック：9点、書籍・雑誌：9点、その他資料：5点

### ○所蔵先

松戸市教育委員会蔵：79点 松戸市蔵：2点

松戸市立博物館蔵：3点(陸軍工兵学校写真資料)

松戸市戸定歴史館蔵：3点(松戸競馬場写真資料)

## ■相模台の変遷

現在、聖徳大学や松戸中央公園などがある相模台は、本市「新拠点ゾーン整備基本構想」の予定地であるとともに、様々な歴史を秘めている場所です。

戦国時代は北條と里見の古戦場でしたが、明治期の終わりから大正期にかけては競馬場が設置され大衆の娯楽場となります。当時の様子は徳川昭武が写真に残しており、今回の展覧会でもご紹介いたします。この競馬場は1919(大正8)年南葛飾郡に移転し、現在、中山競馬場として知られています。



徳川昭武  
総武競馬場 1908(明治41)年  
松戸市戸定歴史館蔵



徳川昭武  
競馬(総武競馬場内) 1908(明治41)年 松戸市戸定歴史館蔵

1919(大正 8)年には陸軍工兵学校が相模台に設置され、終戦までこの地を利用しました。



陸軍工兵学校 1940(昭和 15)年頃  
松戸市立博物館蔵



陸軍工兵学校正門 松戸市立博物館蔵

そして、1945(昭和 20)年 10 月、終戦とともに閉鎖した陸軍工兵学校校舎に**東京高等工芸学校**を前身とする東京工業専門学校が移転します。

### ■東京高等工芸学校から千葉大学工学部へ

本展で取り上げる東京高等工芸学校は、1921(大正 10)年東京市芝区に設置された戦前を代表する本格的なデザイナー養成学校です。この学校は近代技術や産業と芸術の統合を目標にしており、豊口克平や剣持勇などといった著名なデザイナーを輩出し、日本のデザイン史上極めて重要な役割を担いました。

1945(昭和 20)年 5 月の東京大空襲で校舎が焼失し、同校は 8 月に閉鎖された相模台の陸軍工兵学校校舎に移転します。その後、1949(昭和 24)年の新制大学発足に際し、千葉大学工芸学部(後に工学部に改組)となり、1964(昭和 39)年に西千葉地区に移転するまでの約 20 年間、松戸において先進的なデザイン教育を続けました。同学部はデザインと工学系科目を学べる非常にユニークな学部で、ここから戦後の日本デザインを支えるデザイナーや芸術家が巣立ちました。



東京高等工芸学校正門(東京市芝区)  
『東京高等工芸学校一覧』  
(同校発行、1929 年)



千葉大学工学部正門(相模台) 松戸市立博物館蔵

### 略年表

1921(大正 10)年：デザイナーの養成機関である東京高等工芸学校が東京市芝区に設置。

1944(昭和 19)年：東京工業専門学校に改称。

1945(昭和 20)年：10 月、松戸市岩瀬の旧陸軍工兵学校校舎に移転。

1949(昭和 24)年：千葉大学工芸学部となる。

1951(昭和 26)年：千葉大学工学部に改組。

1964(昭和 39 年)：千葉大学工学部が西千葉地区へ移転。

## ■松戸市教育委員会のコレクションの特色

松戸市教育委員会はこれまでに松戸にゆかりのある美術品・資料を収集し、現在約 3600 点所蔵しています。そのなかでも約 4 割は東京高等工芸学校に関する資料であり、コレクションの核をなすものです。日本のデザイン教育を語る上で欠かすことのできない東京高等工芸学校の作品・資料を、これほどまとまった形で体系的に所蔵しているのは松戸市より他になく、本市の文化資産の特色の一つと言えます。

## ■主な出品作家

**松岡 壽**(1861-1944)

洋画家。東京高等工芸学校設立委員となり、初代校長を務めました。



〈本を読む少女、弘子〉  
1936 (昭和 11) 年

**けいし  
型而工房**

(1928-1938 頃)

東京高等工芸学校の関係者を中心に結成されたデザインの同人団体。合理的かつ美しいインテリアの生産を目指しました。



〈小椅子〉  
1930 (昭和 5) 年頃

**大橋 正** (1916-1998)

東京高等工芸学校工芸図案科卒業。グラフィックデザイナー。野田醤油(現キッコーマン)や明治製菓の広告デザインを多く手掛けました。



上:〈重宝でお得な瓶詰! キッコーマン醤油〉  
下:〈明治ミルクチョコレート〉  
1952 (昭和 27) 年

**剣持 勇** (1912-1971)

東京高等工芸学校木材工芸科卒業。デザイナー。1964 (昭和 39) 年の東京オリンピックではデザイン委員を務めました。また、本展出品の《籐丸椅子 C-315S》はニューヨーク近代美術館の永久所蔵品に日本の家具として初めて選出され、日本のモダンデザインが海外で評価を受けた証と言えます。



〈籐丸椅子 C-315S〉  
1960 (昭和 35) 年頃



## ■もうひとつの相模台の記憶 ひろいっとむ 広井力の松戸市庁舎作品

松戸市庁舎には、彫刻家・広井力の作品が4点設置されています。広井は1925（大正14）年東京生まれ。終戦直後に東京高等師範学校（現筑波大学）を卒業し、その直前の1945（昭和20）年5月から8月まで、学徒出陣により松戸の陸軍工兵学校に在籍しました。

戦後、ブランクーシの彫刻に影響を受けて制作を始め、1950（昭和25）年に来日したイサム・ノグチに会い、制作助手を務めました。1952（昭和27）年よりモダンアート協会会員。1969（昭和44）年宇部市の野外彫刻美術館賞を受賞。東京学芸大学名誉教授。

松戸市庁舎では、縁あって1959（昭和34）年に竣工した本館の中庭に〈目のあるオブジェ〉（1953年、第4回モダンアート展出品）が置かれ、1971（昭和46）年に〈石庭〉（本館・新館連絡通路横の中庭）を制作。同年松戸市内の石材店の協力で制作された〈宇宙的な庭〉（新館地下玄関外の壁面）は現在も状態が良く、作者自身も大変気に入っているといます。陸軍工兵学校で見ていた相模台の太陽を表現したという〈心に太陽を〉（1978年、議会棟エントランスホール壁面）は瀬戸内海の北木島産のサビ石という赤や茶の入った御影石を使って制作されました。空を愛し明快なスタイルを旨とするこの作家らしい気宇壮大な作品です。



左：〈目のあるオブジェ〉  
1959（昭和34）年  
右：〈石庭〉  
1971（昭和46）年



左：〈宇宙的な庭〉  
1971（昭和46）年  
右：〈心に太陽を〉  
1978（昭和53）年

## ■松戸市章

松戸市の市章は現在、松戸市職員の徽章や市内マンホールの蓋のデザインなどに採用されています。この市章は1949（昭和24）年12月に制定されました。1948（昭和23）年の市制施行5周年に合わせて広く市民からデザイン案が募集され、これに対して150件もの応募がありました。選出されたのは、相模台に設置されていた東京工業専門学校（現千葉大学工学部）の学生の案でした。



空へ上昇する朝日を表しているデザインは、戦後未来へ飛躍する松戸市を表現しており、千葉大学工学部と松戸市の縁を示すものであると言えます。

■本展監修者 敷田 弘子 氏（武蔵野美術大学 図書館・美術館）

## I 相模台の記憶 松戸にあった千葉大学工学部のデザインと美術

会場:松戸市立博物館

会期:2018(平成30)年8月4日(土)-9月2日

(日)主催:松戸市教育委員会

### 出品リスト

no.	作者	タイトル	所蔵	サイズ(縦×横×高×径 cm)	制作年	材質
1		松戸市徽章	松戸市	1.2 × 1.2		金属
2	徳川昭武	総武競馬会入口	松戸市戸定歴史館	9.9 × 14.3	1907年9月29日撮影	印画紙
3	徳川昭武	総武競馬場	松戸市戸定歴史館	9 × 12	1908年	印画紙
4	徳川昭武	競馬(総武競馬場内)	松戸市戸定歴史館	4 × 10.5	1908年	印画紙
5	五十七期工兵	陸軍工兵学校アルバム「特火点」	松戸市立博物館	34.5 × 53	1940年頃	アルバム、印画紙
6	杉田源兵衛	陸軍工兵学校スクラップブック	松戸市立博物館	31 × 49	1933年～1944年頃	アルバム、印画紙
7	松戸市	ALBUM no.2	松戸市立博物館	28.3 × 39.4		アルバム、印画紙
8		高等工芸学校校舎	松戸市教育委員会	21.4 × 27.5	1921年	印画紙
9		東京高等工芸学校附属工芸実修学校第七回卒業記念	松戸市教育委員会	21.8 × 27.4	1930年	印画紙
10	池田三四郎	高等工芸写真部卒業生	松戸市教育委員会	7.9 × 12	1930年	印画紙
11		集合写真(中橋文部大臣 校長ら)	松戸市教育委員会	19.9 × 26.3		印画紙
12	松岡壽	イタリーの田舎娘	松戸市教育委員会	51.7 × 34.1	1881年	紙、木炭
13	松岡壽	本を読む少女、弘子像	松戸市教育委員会	73.0 × 61.0	1936年	キャンバス、油彩
14	和田香苗	ウスリー河	松戸市教育委員会	37.8 × 45.8	1941年	キャンバス、油彩
15	和田香苗	会堂の一隅	松戸市教育委員会	146 × 112.5		キャンバス、油彩
16	鹿島英二	きじ図案原図	松戸市教育委員会	21.2 × 15.2		紙、着彩
17	鹿島英二	花模様図案原図	松戸市教育委員会	23.7 × 15.2		紙、着彩
18	鹿島英二	鶴図案(『図案新集』PL260)原図	松戸市教育委員会	21.6 × 15.4		紙、着彩
19	鹿島英二	花鳥図案原図	松戸市教育委員会	21.9 × 15.5		紙、着彩
20	渡辺春男	帯地図案	松戸市教育委員会	56.4 × 94.1		紙、グアッシュ
21	鈴木豊次郎	白象牙タペストリー図案	松戸市教育委員会	106 × 106	1925年	綿布、着彩
22	川浪和夫	草と実図案	松戸市教育委員会	66.5 × 135.4	1929年	紙、水彩
23	川浪和夫	仏蘭西刺繍応用テーブルクロス	松戸市教育委員会	57.3 × 57.8		紙、グアッシュ
24	安藤良弘	植物図案	松戸市教育委員会	60.5 × 83.8	1925年	紙、水彩
25	高橋〔万寿男〕	子供洋服地	松戸市教育委員会	16.5 × 16.5	1929年	紙、グワッシュ
26	鈴田照次	型絵染帯 黍文	松戸市教育委員会	30.8 × 319.7		綿
27	鈴田照次	型絵染帯 齒染文	松戸市教育委員会	30 × 355.2		綿
28	日野厚	大倉陶園ティーセット	松戸市教育委員会	4.8 × 14.2		磁器
29	久米福衛	安田祿造肖像	松戸市教育委員会	80.1 × 60.6	1941年	油彩
30	池田三四郎	静物	松戸市教育委員会	11 × 15.6		印画紙
31	池田三四郎	東京高等工芸学校写真部校舎	松戸市教育委員会	14.5 × 10.9		印画紙
32	山下謙一	『s.p』	松戸市教育委員会	18.9 × 12.8	1933年	紙、印刷
33	横山薫次(表紙)	『造園芸術』	松戸市教育委員会	26 × 19		紙、印刷
34		松戸市章旗	松戸市	100 × 150		布
35	豊田勝秋	春日遅々(花生)	松戸市教育委員会	× 13.7 × 21.6	1927年	ブロンズ
36	豊田勝秋	花さし	松戸市教育委員会	22.3 × 6.5	1930年	ブロンズ
37	型而工房	型而工房リーフレット	松戸市教育委員会	17.1 × 12.5	1930年	紙、凸版
38	手塚敬三、 松本政雄	型而工房ラポルト 1 パイプ家具	松戸市教育委員会	26.3 × 19.4	1932年頃	紙、凸版
39	小林登、豊口克 平、斎藤四郎	型而工房ラポルト 2 椅子	松戸市教育委員会	26.6 × 19.3	1932年頃	紙、凸版
40	豊口克平	型而工房ラポルト 3 アパートメントの室内図解と数字	松戸市教育委員会	26 × 18.9	1932年頃	紙、凸版
41	型而工房	テストチェアー	松戸市教育委員会	9.5 × 10		印画紙、墨
42	型而工房	TEST CHAIRによる調査	松戸市教育委員会	16.4 × 24.2		紙、孔版
43	型而工房	豊口居室	松戸市教育委員会	13 × 18	1931年	印画紙
44	型而工房	型而工房第一回展 モデルルーム居間	松戸市教育委員会	11.5 × 15.3	1930年	印画紙
45	型而工房	型而工房室内工芸試作展覧会目録	松戸市教育委員会	24.2 × 17.5	1928年	紙、孔版
46	型而工房	「新しい住宅と家具」の講習会	松戸市教育委員会	24.2 × 33	1931年	紙、孔版
47	池田三四郎	型而工房展会場にて	松戸市教育委員会	10.7 × 15.3		印画紙
48	型而工房	型而工房展ニヨル厨房モデルルーム	松戸市教育委員会	11 × 15.5	1934年	印画紙
49	森谷延雄	小さき室内美術	松戸市教育委員会	30.5 × 22	1926年	紙、印刷
50	木檜忍一	新らしい家と家具装飾	松戸市教育委員会	23 × 15	1927年	紙、印刷
51	宮下孝雄	装飾構成の研究	松戸市教育委員会	23 × 15	1933年	紙、印刷
52	安田祿造	本邦工芸の現在及び将来	松戸市教育委員会	20 × 13	1917年	紙、印刷
53	寺畑助之丞	母と子(横たわる)	松戸市教育委員会	62 × 137 × 55	1937年	石膏
54	型而工房	小椅子	松戸市教育委員会	45.9 × 41.8 × 83.5 × 39.6	1930年頃	檜、力裂
55	型而工房	肘掛け椅子	松戸市教育委員会	54.3 × 54 × 73.5 × 32.9	1930年頃	檜、杉、力裂

56	型而工房	書架	松戸市教育委員会	33 × 130.5 × 94			木
57	木檜怨一	キャビネット	松戸市教育委員会	32 × 65.5 × 91	1924 年		木
58	木檜怨一	茶筆筒	松戸市教育委員会	29.8 × 120 × 107	1924 年		木
59	畑正吉	木檜怨一肖像	松戸市教育委員会	33.4 × 34.8	1949 年		ブロンズ
60	鈴木豊次郎	応接机	松戸市教育委員会	61.2 × 61.2 × 5	1933 年		木
61	鈴木豊次郎	応接椅子	松戸市教育委員会	47.2 × 42.3 × 2	1933 年		木、布
62	宮下孝雄	脇机	松戸市教育委員会	44.7 × 69.4 × 2	1932 年		木
63	森谷延雄	円形花台	松戸市教育委員会	31.1 × 75 × 1	1925 年		木
64	森谷延雄	側書架	松戸市教育委員会	41.7 × 40.8 × 2	1927 年		木
65	森谷延雄	角型花台	松戸市教育委員会	42.8 × 43.2 × 7	1925 年		木
66	渡辺力	書棚	松戸市教育委員会	33 × 130.5 × 94	1942 年		木
67	大橋正	重宝でお得な瓶詰！キッコーマン醤油	松戸市教育委員会	25.2 × 35.1			紙、凸版網版
68	大橋正	朝の教養を聞きましょう	松戸市教育委員会	75.6 × 53			紙
69	大橋正	しめたぞ！めで…300 万円 3 月の宝くじ	松戸市教育委員会	50.2 × 36.3	1950 年		紙、印刷
70	大橋正	明治ミルクチョコレート	松戸市教育委員会	72.1 × 50.8	1952 年		紙、オフセット
71	大橋正	スクラップブック『ARS ALBUM』	松戸市教育委員会				紙
72	大橋正	ファイル集「明治製菓作品集 No.16 1959 AD.ART FILE」	松戸市教育委員会	31.4 × 23.2	1959 年		紙
73	大橋正	スクラップブック「萬」	松戸市教育委員会	30.5 × 23			紙
74	剣持勇デザイン研究所	藤丸椅子 C-315S	松戸市教育委員会	83.2 × 81.2 × 68	1960 年		藤
75	剣持勇デザイン研究所	サイドテーブル	松戸市教育委員会		3 × 7	1960 年	ナラ
76	剣持勇デザイン研究所	スタッキングスツール 202	松戸市教育委員会	33 × 33 45	1959 年		ビニール、ブナ
77	剣持勇デザイン研究所	柏戸椅子 T-7165	松戸市教育委員会	77 × 85 63	1961 年		杉、プラスチック
78	剣持勇デザイン研究所	藍胎漆器(深鉢)	松戸市教育委員会	10 × 17 5	1958 年		竹、漆
79	剣持勇デザイン研究所	藍胎漆器(盆ざる)	松戸市教育委員会		45	1958 年	竹、漆
80	産業工芸試験所(豊口克平)	鉄製スタッキングスツール	松戸市教育委員会	44 × 48 × 39	1955 年		鉄、ビニール
81	土屋幸夫	灰	松戸市教育委員会	97 × 127.5	1954 年		キャンバス、油彩
82	土屋幸夫	(調和をよぎって)	松戸市教育委員会	36.7 × 48.8	1970 年 代		鉛筆、インク、水彩、新聞、レイアウト用紙
83	土屋幸夫	(重なり合って)	松戸市教育委員会	38 × 26.2	1975 年		サインペン、鉛筆、方眼紙
84	土屋幸夫	pythagoras's variation- II	松戸市教育委員会	27.7 × 41.5	1970 年 代初		サインペン、鉛筆、方眼紙
85	赤穴 宏	「眼」赤と青 '63	松戸市教育委員会	80.8 × 73	1963 年		キャンバス、油彩
86	赤穴 宏	始祖鳥	松戸市教育委員会	48.9 × 60.6	1956 年		キャンバス、油彩
87	山口正城	夏のこだま	松戸市教育委員会	129 × 161.6	1957 年 5 月 12 日		紙、彩色

◆各作品について

・番号、タイトル、所蔵者、作品サイズ(縦×横×高×径)、制作年、材質の順に記載しました。



## Ⅱ 利根川に魅せられて—松戸の写真家、及川修次の仕事—



「マコモ茂る舟繋ぎ場」 1975(昭和50)年



「矢切の渡し 江戸川」 1975(昭和50)年

### ■展示の見どころ

1. 松戸市在住の最高齢(96歳)の写真家、及川修次氏が、1974(昭和49)年から2001(平成13)年まで、四半世紀を超える年月をかけて利根川流域を撮影したライフワークを初めてご紹介する展覧会です。
2. 作品には、1970年代から及川修次氏が取り組んできた利根川というテーマのもと、群馬県の奥利根の源流から千葉県銚子市の河口にいたる利根川水系の豊かな自然とそこに暮らす人々の生活が活写されています。悠久の昔から続く川と人の関わりが誠実にとらえられ、静かな普遍性をもって浮かび上がる本作品群ですが、それらはまた、急速な変化を遂げる時代の中で私たちが失いつつある少し前の世界の類い稀な記録ともなっており、懐かしい魅力に満ちています。
3. この展覧会のために実施した及川修次氏作品の悉皆調査をもとに、約2,700点の作品の中から出品作品を選定し、47点のオリジナルプリントに加え、新たに31点のニュープリントを制作しました。利根川の支流のひとつである江戸川の「矢切の渡し」のほか、柏や野田など近隣市で撮影された写真も含まれ、松戸市民をはじめ千葉県民にも利根川の世界との繋がりが身近に感じられる内容です。
4. 戦前から戦時中にプロのカメラマンとして活躍し、戦後まもなく早世した及川修次氏の兄、及川清太郎(1906-1946)の作品を今回初めてご紹介します。

### ■出品予定作品

○及川修次作品 モノクロ写真(ゼラチンシルバークローム) 78点

○スライドショー 5本 プリント作品とは別に、祭りや水害の一部始終など、特に組み写真としてまとめてご覧いただきたい作品を、スライドショーとして以下の5つのテーマごとに会場内で上映いたします。

- ① すみつけ祭(16点) 群馬県佐波郡玉村町上福島地区に伝わる祭りの記録。
  - ② 利根川流域の水害(18点) 千葉県我孫子市と茨城県取手市の利根川流域で起きた二つの水害の記録。
  - ③ 佐倉兵営跡(12点) 千葉県佐倉市に残っていた兵営、兵舎の建物の記録。
  - ④ 三ツ堀のどろ祭(24点) 千葉県野田市で1980年代まで行なわれていた祭りの記録。
  - ⑤ 利根川山河(47点) 利根川全流域を撮影し、1981年の個展に出品された作品全点の記録。
- 【参考出品】及川清太郎作品 モノクロ写真(ゼラチンシルバークローム)(一部手彩色) 15点  
及川修次氏に影響を与えた兄、及川清太郎の貴重な作品を初めて公開します。

■及川修次写真展「利根川山河」について (スライドショー⑤で全出品作品を紹介します) 1981 (昭和 56) 年 11 月 10 日 - 11 月 16 日、新宿ニコンサロンにて開催。利根川を題材とした及川氏の最初の個展で、1974 (昭和 49) 年からこの年までに撮影した写真が出品されました。

〈ニコンサロン〉

ニコンサロンは 1968 (昭和 43) 年にニコン創立 50 周年を記念し銀座に開設された公募展のための写真展会場です。新宿のニコンサロンの開設は 1971 (昭和 46) 年のことで、この他に大阪にも会場があります。また、ニコンサロンでの個展開催にあたっては多数の応募の中から著名な写真家や評論家らによる審査を受ける必要があります。個展会場としては非常に狭き門です。

■「利根川山河」以降の活動

ニコンサロンでの個展以降も及川氏は 20 年にわたって精力的に利根川の撮影を続け、2002 年には著書『写真集 利根川新紀行』(国書刊行会) を刊行しました。

■及川修次氏 略歴

1922 (大正 11) 年 5 月 17 日	岩手県花巻市東和町土沢に生まれる。
1969 (昭和 44) 年	土沢より松戸市に転居。
1974 (昭和 49) 年	「利根川」の源流部から銚子河口まで、歴史・民俗・生活・風景等の撮影を開始。2001 (平成 13) 年まで続ける。
1981 (昭和 56) 年 11 月 10 日-16 日	及川修次写真展「利根川山河」(新宿・ニコンサロン)
1983 (昭和 58) 年	写真集『新花巻・北上風土記』(国書刊行会) 全写真担当。
2002 (平成 14) 年	著書『写真集 利根川新紀行』(国書刊行会) 刊行。
2012 (平成 24) 年 4 月 21 日-6 月 24 日	「写真家 及川修次 故郷へのオマージュ「岩手風土記」展」iwate コンテンポラリーアート《全国美術館会議 東日本大震災復興対策事業》(主催：花巻市・萬(30才) 鉄五郎記念美術館、会場：同館「八丁土蔵ギャラリー」)。全 106 点出品。
2017 (平成 29) 年	著書『大いなるみちびきのもとに 94 歳写真家 祈りと感謝の旅』(文芸社) 刊行。

■及川修次氏の兄、及川清太郎 (1906-1946) について

及川氏が少年時代よりカメラに親しんだ背景には、16 歳違いの次兄・及川清太郎 (1906 - 1946) の存在がありました。このことを踏まえ、本展では清太郎の写真を参考出品しています。

及川清太郎は、1936 年 6 月にオリエンタル写真学校を第 15 期生として卒業したプロの写真家で、国策宣伝グラフ雑誌『写真週報』(1938 年創刊、内閣情報部発行) などの仕事をしていたと伝えられます。

また戦前に撮影された女性の着色肖像写真等すぐれた作品が残されており、幅広い活動をしていたことがうかがえます。

松戸市による及川修次氏の作品調査によって今回初めて明るみに出た清太郎の写真は、及川氏のルーツを探る上で重要であるのみならず、日本の近代写真史の様相を知るための大変貴重な資料と考えられます。



及川清太郎撮影「千葉幸子」  
(ゼラチンシルバープリント、手彩色)

■本展監修者 金子 隆一 氏 (写真史家)

## Ⅱ 利根川に魅せられて—松戸の写真家、及川修次の仕事—

会場:松戸市立博物館

会期:2018(平成30)年8月4日(土)-9月2日

(日)主催:松戸市教育委員会

担当:松戸市教育委員会社会教育課美術館準備室

### 出品リスト

no.	作者	タイトル	サイズ(縦×横)	撮影年月日	材質
プリント					
1	及川修次	利根川の上流	44 × 33 cm	1976(昭和51)年 10月 7日	ゼラチンシルバープリント
2	及川修次	奥利根湖	32.8 × 44.2 cm	1988(昭和63)年 8月 7日	ゼラチンシルバープリント
3	及川修次	奥利根湖 千早沢の出会より本流方向を望む	32.9 × 43.9 cm	1988(昭和63)年 10月 15日	ゼラチンシルバープリント
4	及川修次	奥利根湖 E地点 旧湯の花温泉付近より矢種山を望む	20.4 × 29.4 cm	1988(昭和63)年 10月 15日	ゼラチンシルバープリント
5	及川修次	濁水の矢木沢ダム堰堤	22 × 29.2 cm	1978(昭和53)年 10月 2日	ゼラチンシルバープリント
6	及川修次	利根川のアユ釣り	33 × 44 cm	1976(昭和51)年 11月 11日	ゼラチンシルバープリント
7	及川修次	秋風そよぐ利根川 水上温泉付近	22 × 29.3 cm	1978(昭和53)年 9月 30日	ゼラチンシルバープリント
8	及川修次	農家* 明川	29.2 × 22 cm	1978(昭和53)年 10月 1日	ゼラチンシルバープリント
9	及川修次	雪囲い 明川	22 × 29.2 cm	1976(昭和51)年 11月 10日	ゼラチンシルバープリント
10	及川修次	桑畑にて*	22 × 29.2 cm		ゼラチンシルバープリント
11	及川修次	中島家 明川	22 × 29.2 cm	1978(昭和53)年 10月 2日	ゼラチンシルバープリント
12	及川修次	中島家の土間 明川	22 × 29.2 cm	1976(昭和51)年 11月 19日	ゼラチンシルバープリント
13	及川修次	山田の稲刈り 平出	33 × 44 cm	1976(昭和51)年 10月 8日	ゼラチンシルバープリント
14	及川修次	大豆のさや打ち 冬は峰までやって来ている。 明川	22 × 29.2 cm	1976(昭和51)年 11月 10日	ゼラチンシルバープリント
15	及川修次	秋日和はひなたが一番 藤原	22 × 29.2 cm	1978(昭和53)年 10月 1日	ゼラチンシルバープリント
16	及川修次	猫* 藤原	21.9 × 29.1 cm	1978(昭和53)年 10月 1日	ゼラチンシルバープリント
17	及川修次	吹割れの滝 利根村	32.6 × 44.3 cm	1986(昭和61)年 5月 8日	ゼラチンシルバープリント
18	及川修次	輪まわし 下川田町	33 × 44 cm	1976(昭和51)年 11月 28日	ゼラチンシルバープリント
19	及川修次	囲炉裏に寄り合う親子 下川田町	32.9 × 44.1 cm	1976(昭和51)年 11月 28日	ゼラチンシルバープリント
20	及川修次	セツチンヨメゴ(便所神) 下川田町	43.9 × 33 cm	1976(昭和51)年 11月 28日	ゼラチンシルバープリント
21	及川修次	土蔵ある風景 利根村追貝	19.3 × 29.4 cm	1982(昭和57)年 3月 29日	ゼラチンシルバープリント
22	及川修次	水ぬるむ 利根村追貝	32.9 × 44.1 cm	1982(昭和57)年 3月 29日	ゼラチンシルバープリント
23	及川修次	小沼にも春は陽光に誘われやってくる 赤城山	20.5 × 29.4 cm	1985(昭和60)年	ゼラチンシルバープリント
24	及川修次	渡良瀬遊水地のおしの原 藤岡町	19.3 × 29.4 cm	1982(昭和57)年 1月 27日	ゼラチンシルバープリント
25	及川修次	よし刈り 渡良瀬遊水池(1) 藤岡町	20.5 × 29.5 cm	1982(昭和57)年 1月 27日	ゼラチンシルバープリント
26	及川修次	よし刈り 渡良瀬遊水池(2) 藤岡町	32.9 × 44.2 cm	1982(昭和57)年 1月 27日	ゼラチンシルバープリント
27	及川修次	七夕馬 大利根町北大桑	33.1 × 44 cm	1976(昭和51)年 8月 6日	ゼラチンシルバープリント
28	及川修次	利根川(右)と江戸川(左)の分流点— 関宿	32.9 × 44.1 cm	1975(昭和50)年 2月 10日	ゼラチンシルバープリント
29	及川修次	仏の迎火 孟蘭盆	32.9 × 44.3 cm	1978(昭和53)年 8月 13日	ゼラチンシルバープリント
30	及川修次	古利根川のたそがれ 満々とした流れに釣り場を求める	20.5 × 29.4 cm	1982(昭和57)年 4月 24日	ゼラチンシルバープリント
31	及川修次	古利根川にて	32.9 × 44.1 cm	1982(昭和57)年 4月 24日	ゼラチンシルバープリント
32	及川修次	矢切の渡し 江戸川	32.9 × 44.2 cm	1975(昭和50)年 2月 21日	ゼラチンシルバープリント
33	及川修次	秋の収穫 今年はお上りの出来 布施	22 × 29.2 cm	1974(昭和49)年 8月 30日	ゼラチンシルバープリント
34	及川修次	河童ども 布施	22 × 29.2 cm	1974(昭和49)年 8月 30日	ゼラチンシルバープリント
35	及川修次	水溜り 布施	20.5 × 29.4 cm	1974(昭和49)年 8月 30日	ゼラチンシルバープリント
36	及川修次	手賀沼の汚染	22 × 29.2 cm	1975(昭和50)年 4月 10日	ゼラチンシルバープリント
37	及川修次	手賀沼の秋日和	20.5 × 29.4 cm	1974(昭和49)年 10月 14日	ゼラチンシルバープリント
38	及川修次	朝は漁り舟でにぎわう手賀沼	43.9 × 33 cm	1974(昭和49)年 10月 14日	ゼラチンシルバープリント
39	及川修次	往く秋は水面に 手賀沼	21.7 × 29.2 cm		ゼラチンシルバープリント
40	及川修次	「オーイッ、舟が出るぞ!!!」陸の孤島・ オオホリ 小堀の渡し船の船頭さん	21.7 × 29.2 cm	1974(昭和49)年 12月 6日	ゼラチンシルバープリント
41	及川修次	取手の渡船	33 × 43.9 cm	1975(昭和50)年 11月 7日	ゼラチンシルバープリント
42	及川修次	どんど焼き 利根川河川敷	22 × 29.2 cm	1977(昭和52)年 1月 15日	ゼラチンシルバープリント
43	及川修次	利根川と小貝川の合流地点	21.7 × 29.2 cm	1975(昭和50)年 5月 18日	ゼラチンシルバープリント
44	及川修次	苗代から早苗を取る 印西町	22.1 × 29.2 cm	1975(昭和50)年 5月 15日	ゼラチンシルバープリント
45	及川修次	苗の植え直しをする人	20.5 × 29.4 cm	1976(昭和51)年 5月 14日	ゼラチンシルバープリント
46	及川修次	虫送り 印西町	22 × 29.2 cm		ゼラチンシルバープリント
47	及川修次	夕映え	32.9 × 44.2 cm	1976(昭和51)年 7月 6日	ゼラチンシルバープリント
48	及川修次	フナの水揚げ 印旛沼	22 × 29.2 cm	1980(昭和55)年 月 日	ゼラチンシルバープリント
49	及川修次	印旛沼夕映	33 × 43.9 cm	1975(昭和50)年 10月 26日	ゼラチンシルバープリント
50	及川修次	犬供養	19.5 × 29.4 cm	1982(昭和57)年 1月 17日	ゼラチンシルバープリント
51	及川修次	犬卒塔婆	20.4 × 29.4 cm	1982(昭和57)年 1月 17日	ゼラチンシルバープリント
52	及川修次	投網する人、根木名川にて 安西	33 × 43.9 cm	1978(昭和53)年 4月 26日	ゼラチンシルバープリント
53	及川修次	蛇沼(1)	22 × 29.2 cm		ゼラチンシルバープリント
54	及川修次	蛇沼(2)	21.5 × 29.4 cm	1975(昭和50)年 6月 16日	ゼラチンシルバープリント
55	及川修次	じゅんさい採り 蛇沼	22 × 29.2 cm	1975(昭和50)年 6月 16日	ゼラチンシルバープリント

no.	作者	タイトル	サイズ(縦×横)	撮影年月日	材質
56	及川修次	春はさざ波と共にやって来る 河内村	33 × 44 cm	1975 (昭和 50)年 3月 27日	ゼラチンシルバープリント
57	及川修次	働く人 神崎町小松	22 × 29.2 cm	1975 (昭和 50)年 11月 8日	ゼラチンシルバープリント
58	及川修次	利根の流れに浸る牛の群 東村押砂	33 × 44 cm	1975 (昭和 50)年 7月 19日	ゼラチンシルバープリント
59	及川修次	神崎神社の旧社地 ニツ塚 新利根村	32.9 × 44 cm	1974 (昭和 49)年 9月 30日	ゼラチンシルバープリント
60	及川修次	引つ掛けた! 草魚を釣る人 利根川、水郷大橋にて	32.9 × 44.1 cm	1974 (昭和 49)年 12月 31日	ゼラチンシルバープリント
61	及川修次	どうだい! 草魚を引つ掛け持ち上げる若い人 水郷大橋付近	44.2 × 32.9 cm	1974 (昭和 49)年 12月 31日	ゼラチンシルバープリント
62	及川修次	利根川 仏送り 津ノ宮	22 × 29.2 cm	1975 (昭和 50)年 8月 16日	ゼラチンシルバープリント
63	及川修次	自転車	32.9 × 44.2 cm	1978 (昭和 53)年 6月	ゼラチンシルバープリント
64	及川修次	マコモ茂る舟繋ぎ場 霞ヶ浦 麻生町	33 × 44 cm	1975 (昭和 50)年 11月 8日	ゼラチンシルバープリント
65	及川修次	棧橋 霞ヶ浦	44.2 × 32.9 cm	1975 (昭和 50)年 11月 8日	ゼラチンシルバープリント
66	及川修次	旧神宮橋(大船津) 北浦	33 × 43.9 cm	1976 (昭和 51)年 2月 6日	ゼラチンシルバープリント
67	及川修次	ポッチをかぶった女性たちの昼のひととき 常陸利根川	22 × 29.2 cm	1975 (昭和 50)年 12月 1日	ゼラチンシルバープリント
68	及川修次	外浪逆浦	32.9 × 44.1 cm	1976 (昭和 51)年 5月 14日	ゼラチンシルバープリント
69	及川修次	波崎海岸 波崎町	20.4 × 29.4 cm	1975 (昭和 50)年 7月 19日	ゼラチンシルバープリント
70	及川修次	シジミの荷揚げ場での語らい	33 × 44 cm	1975 (昭和 50)年 2月 19日	ゼラチンシルバープリント
71	及川修次	採取を終え帰ってきたシジミ舟	22 × 29.2 cm	1975 (昭和 50)年 2月 19日	ゼラチンシルバープリント
72	及川修次	シジミの選別作業	22 × 29.2 cm	1975 (昭和 50)年 12月 14日	ゼラチンシルバープリント
73	及川修次	波高き利根川河口の防波堤	21 × 29.5 cm	1990 (平成 2)年 2月 11日	ゼラチンシルバープリント
74	及川修次	銚子港	32.9 × 44.2 cm	1975 (昭和 50)年 7月 19日	ゼラチンシルバープリント
75	及川修次	銚子港 夏の花火大会	44 × 33 cm	1975 (昭和 50)年 8月 2日	ゼラチンシルバープリント
76	及川修次	テープレコーダーに聴き入る	25.4 × 23.3 cm	1950 (昭和 25)年	ゼラチンシルバープリント
77	及川修次	開拓地の兄弟 岩手県気仙郡種山ヶ原開拓地にて	29.5 × 23.8 cm	1955 (昭和 30)年頃	ゼラチンシルバープリント
78	及川修次	岩崎鬼剣舞	25.4 × 30.5 cm	1967 (昭和 42)年	ゼラチンシルバープリント

#### スライドショー

1	及川修次	すみつけ祭 (群馬県佐波郡玉村町上福島地区)	1979 (昭和 54)年 2月 15日 1982 (昭和 57)年 2月 15日
2	及川修次	利根川流域の水害 (千葉県我孫子市/茨城県取手市)	1982 (昭和 57)年 8月 2日-13日 1981 (昭和 56)年 8月 24日 1995 (平成 7)年 11月 17日
3	及川修次	佐倉兵営跡 (千葉県佐倉市)	1975 (昭和 50)年 10月 26日-27日
4	及川修次	三ツ堀のどろ祭 (千葉県野田市)	1975 (昭和 50)年-1986 (昭和 61)年 4月 3日
5	及川修次	利根川山河 (利根川全流域)	1974 (昭和 49)年-1981 (昭和 56)年

#### 参考出品

1	及川清太郎	少女 *	15.4 × 11.3 cm	ゼラチンシルバープリント、手彩色
2	及川清太郎	少女 *	24.6 × 17.8 cm	ゼラチンシルバープリント
3	及川清太郎	日本髪的女性 *	13.5 × 9.2 cm	ゼラチンシルバープリント
4	及川清太郎	日本髪的女性 *	17.2 × 12.7 cm	ゼラチンシルバープリント
5	及川清太郎	千葉幸子	14.6 × 10 cm	ゼラチンシルバープリント、手彩色
6	及川清太郎	女性 *	14.4 × 10.5 cm	ゼラチンシルバープリント
7	及川清太郎	女性 *	14.4 × 10.2 cm	ゼラチンシルバープリント
8	及川清太郎	鈴川みね子(東宝バラエター・古川ロッパ一席)	27.3 × 21.9 cm	ゼラチンシルバープリント
9	及川清太郎	女性 *	15.7 × 11.6 cm	ゼラチンシルバープリント
10	及川清太郎	女性 *	27.9 × 17 cm	ゼラチンシルバープリント、手彩色
11	及川清太郎	長谷川如是閑	26.7 × 21.8 cm	ゼラチンシルバープリント
12	及川清太郎	観ヶ原大演習	16.5 × 26.7 cm	ゼラチンシルバープリント
13	及川清太郎	飛行中のプロペラ機 *	18.3 × 18.3 cm	ゼラチンシルバープリント
14	及川清太郎	アルバム		
15	及川清太郎	東条英機	21.6 × 16.8 cm	ゼラチンシルバープリント

#### 【出品リスト凡例】

- ◆この展覧会は利根川流域を撮影対象とした写真作品を中心に構成し、それらは概ね上流から下流への流れに沿って展示しました。(プリント no. 1-75)
- ◆利根川流域の作品以前の初期の写真作品は、利根川流域を撮影対象とした写真作品の次に展示しました。(プリント no.76-78)
- ◆利根川流域の作品について、プリントの形で展示できなかったものは、スライドショーの形で上映しました。(スライドショー no.1-5)
- ◆作品について
  - ・所蔵はすべて個人蔵です。
  - ・タイトルは、概ね撮影当時の作者の記述に準拠しました。そのため、タイトルに含まれる撮影場所が現行の市町村名と異なる場合があります。
  - ・「\*」のついたタイトルは、タイトルに関する作者の記述がない作品に主催者がつけた仮題です。

#### 【作家略歴】

- ◆及川修次◆ 1922(大正 11)年～  
岩手県花巻市東和町土沢の出身。1969(昭和 44)年から松戸市在住の写真家です。利根川水系の歴史・民俗・生活・風景等の撮影にライフワークとして 1974(昭和 49)年から 2001(平成 13)年まで取り組みました。1981(昭和 56)年には新宿ニコンサロンで「利根川山河」と題した個展を開催しています。
- ◆及川清太郎◆ 1906(明治 39)年～1946(昭和 21)年 享年 40 及川修次氏の兄、及川清太郎はオリエンタル写真学校を卒業(第 15 期生)し、戦前からカメラマンとして活動した人物です。戦時中はオリエンタル写真工業会社に勤務し、国策 グラフ雑誌『写真週報』等で活躍したようです。



# I 相模台の記憶

## 松戸にあった千葉大学工学部のデザインと美術

—— 前身の東京高等工芸学校時代から ——



籐丸椅子C-315S 剣持勇 1960年



明治ミルクチョコレート 大橋正 1952年



肘掛椅子 型而工房 1930年頃

松戸市制施行75周年記念展

# 松戸ゆかりの美術展

—— その潜在力 ——

8.4

土

2018

9.2

日



銚子港 夏の花火大会 及川修次 1975年



マコモ茂る舟繋ぎ場  
及川修次 1975年

# II 利根川に魅せられて

—— 松戸の写真家、及川修次の仕事 ——

■会 場：松戸市立博物館(企画展示室) 〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671番地 ☎047(384)8181

■開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで) ■休館日：毎週月曜日

■主 催：松戸市教育委員会 ■後 援：JOBANアートライン協議会

■助 成：自治総合センター 芸術文化振興基金 公益財団法人朝日新聞文化財団

■協 力：新京成電鉄株式会社 北総鉄道株式会社 流鉄株式会社

■観覧料：一般300(240)円、高大生150(100)円。

( )内は20名以上の団体料金。常設展示は別料金。常設展示との共通観覧料は一般500円、高大生250円。

次の方は無料です。身体障害者手帳、療育手帳または精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている人とその介護者(手帳の交付を受けている方1人につき1人)、松戸市在住の70歳以上の方、中学生以下。





松戸市教育委員会はこれまでに、松戸ゆかりの美術の調査を行い、その結果として様々な芸術資源を掘り起こし、優れた作品を収集して展覧会でご紹介してきました。

今回、松戸ゆかりの美術展では、構成を二つに分け、松戸市が刻んできた芸術の歴史を展観します。二つの展示を通し、松戸という街が秘めている美術の潜在力を感じていただければ幸いです。

## I 相模台の記憶

松戸にあった千葉大学工学部のデザインと美術  
—— 前身の東京高等工芸学校時代から ——

松戸駅から程近い相模台は様々な変貌を遂げた場所です。明治期には、船橋市の中山競馬場の起源である松戸競馬場が設置され、大正期から戦前までは陸軍工兵学校がこの地を利用していました。

1945(昭和20)年、終戦とともに閉校した陸軍工兵学校の校舎に東京工業専門学校が移転します。この学校は大正期に設立された本格的なデザイン教育機関である東京高等工芸学校を前身に持ち、1949(昭和24)年の新制大学発足に際して千葉大学工学部(後に工学部に改組)となります。千葉大学工学部はデザインも学べるユニークな学部として、戦後日本のデザインを支えるデザイナーや芸術家を輩出しました。

本展では東京高等工芸学校時代を中心に、教授陣や卒業生の作品をご紹介します。松戸市教育委員会のコレクションにより、千葉大学工学部へと繋がるデザイン教育の歩みを辿ります。



夏のこだま  
山口正城 1957年



円形花台  
森谷延雄 1925年

### 関連イベント

#### ① ワークショップ

「新鮮で美しいポスターをつくらう！」親子講座

日 時：8月11日(土) 午前10時～午後3時

会 場：松戸市立博物館実習室

講 師：泉晴行氏(学習支援専門家)

対 象：松戸市在住の小学4～6年生と保護者

定 員：10組

持ち物：絵の具セット、道具袋、昼食、飲み物 ※画用紙は用意します

参加費：無料

参加方法：右記参照

#### ② フロアレクチャー「相模台の記憶」

講 師：数田弘子氏(武蔵野美術大学美術館・図書館)

日 時：8月12日(日) 午後2時より約40分間。

会 場：松戸市立博物館企画展示室

参加方法：事前申込不要。参加には観覧券が必要です。

## II 利根川に魅せられて

—— 松戸の写真家、及川修次の仕事 ——

松戸市大橋在住の写真家、及川修次氏(1922年生まれ)は、1970年代より利根川の源流から河口にいたる風景と人々の暮らしの撮影を続けてきました。1981(昭和56)年、新宿のニコンサロンで開催された個展「利根川山河」に出品された作品をはじめ、利根川の厳しくも豊かな自然とその流域でたくましく生きる人々の姿が捉えられたライフワークを展観します。

また、戦前にカメラマンとして活動し、戦時中の国策宣伝写真誌『写真週報』に参加した及川氏の兄、及川清太郎(1906-1946)の作品を初めてご紹介します。



小沼にも春は陽光に誘われやってくる  
及川修次 1985年



矢切の渡し 江戸川 及川修次 1975年

### 関連イベント

#### ③ ワークショップ「私にも撮れるんだ」写真講座

日 時：8月5日(日)午前10時～午後3時

会 場：松戸市立博物館実習室及び21世紀の森と広場

講 師：稲積修氏(写団富士愛好会副会長)

対 象：松戸市在住在勤者 定 員：20名

持ち物：デジタルカメラ、昼食、飲み物 参加費：無料

参加方法：下記参照

#### ④ フロアレクチャー「及川修次の写真」

講 師：金子隆一氏(写真史家)

日 時：8月18日(土) 午後2時より約40分間。

会 場：松戸市立博物館企画展示室

参加方法：事前申込不要。参加には観覧券が必要です。

#### ①、③共通参加方法：

7月20日(金)必着で、往復ハガキに、イベント名・郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・返信用宛名を記入して、〒271-8588松戸市根本356松戸市教育委員会社会教育課美術館準備室へ。※①参加希望の方は、学年・保護者氏名も記入。往復ハガキ1枚につき1イベントの申込みとなります。応募多数の場合は抽選。定員に満たない場合は7月23日(月)から電話で受け付け。問合せ：社会教育課美術館準備室 ☎047-366-7463



### 交通のご案内

① 新京成線「八柱駅」・JR武蔵野線「新八柱駅」下車、徒歩15分。または、松戸新京成バス3番乗り場小金原団地循環・新松戸駅行「公園中央口」下車すぐ。

② JR常磐線・武蔵野線「新松戸駅」下車、松戸新京成バス3番乗り場八柱駅行「公園中央口」下車すぐ。

※博物館には障害者専用以外の来館者専用駐車場はありません。「21世紀の森と広場」の有料駐車場をご利用ください。

### お問い合わせ先

松戸市教育委員会社会教育課美術館準備室

電 話：047-366-7463 (平日午前8時30分～午後5時)

E-mail：mcsakaikyouiku@city.matsudo.chiba.jp

松戸市デジタル美術館

検索